

January/February 2020  
No.3

A News letter from SCGO-JSOG Project  
on Women's Health and Cervical Cancer

# カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF  
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

## 健康教育に関する小学校教員対象のニーズアセスメント調査 実施に向けて準備を進めています

本調査は、新たに健康教育対象になる小学校教員の子宮頸がんや女性の健康に関連する知識や経験を把握し、健康教育プログラムや教材の改変に活かすために実施するものです。2020年1～2月の事業進捗は、以下の通りです。

- 1) 調査票の作成:  
SCGO 健康教育担当スン理事や健康教育フォーカルポイントに任命された SCGO 婦人科医 3 名の意見も伺いながら質問票等を作成しました。
- 2) 調査協力機関との契約:  
カンボジア国立公衆衛生院 ( NIPH : National Institute of Public Health ) が調査協力機関となり、SCGO, JSOG からの助言に基づき、本調査を実施予定です。2 月 24 日に契約書が締結され、現在、調査実施にむけての各種準備が進められています。
- 3) 調査概要:
  - ・対象者: プノンペン市内の小学校女性教員100名
  - ・場所: プノンペン市中心部および郊外の小学校  
計4校程度(各校25名程度予定)
  - ・時期: 2020年3月～4月
  - ・方法: 構造的質問票を用いた、インタビュアーによる対面式聞き取り調査
- 4) 調査実施時に考慮すべき事項:  
12月の日本人専門家来訪の事前調査時、「小学校の教員皆様は多忙で、小学生の授業時間に悪影響を与えないように配慮をしつつ、調査を実施する必要がある」ことがわかりました。小学校での授業のない、週に一度の教員会議の2時間程度の時間を融通して頂いて、インタビューを実施する方向で調整をしています。

順調に調査が実施されれば、6月上旬には、調査協力機関から調査報告書第一版が提出される見込みです。この結果を健康教育が教員向けに効果的なものとなるように、教材の改変や実際の健康教育提供に生かしていくことが期待されています。



## HPV 検査機器を購入しました

カンボジアでは、日本のような細胞診での子宮頸がん検診の展開が困難なため、HPV テストでの展開を図っています。フェーズ 1 (2015-2018) で、HPV 検査機器 (careHPV®) を 1 台導入し、技師の育成、HPV 検査を起点とする検診プロトコール作成を行い、検査が高い精度で実施可能であることを実証しました。(Ueda Y, et al. Development and evaluation of a cervical cancer screening system in Cambodia: A collaborative project of the Cambodian Society of Gynecology and Obstetrics and Japan Society of Obstetrics and Gynecology. J Obstet Gynaecol Res. 2019; 45:1260-1267)。フェーズ 2 では、HPV テストが実施可能な対象病院を増やす計画であり、今回同機器を 1 台購入し、使用に向けて準備を進めています。



## 2 月の日本からカンボジアへの派遣は延期となりました

新型コロナウイルス肺炎 (COVID-19) の感染拡大に伴い、2 月上旬に予定されていた派遣は急遽延期となりました。しかし、現地渡航ができずとも、電子メール等を活用して技術支援を継続し、事業計画に遅れがないよう最大限工夫しています！

## ～ ミニコラム ～ WHO より初の Report on Cancer が発行されました

2 月 4 日「世界対がんデー」に、世界保健機関 (WHO) より初の「がんに関する報告書 (Report on Cancer - Setting priorities, investing wisely and providing care for all)」が発行されました。高齢化や疾病構造の変化に伴い、カンボジアのような低中所得国でもがんが増えつつあります。2018 年における新規罹患患者数は 1810 万人、死亡者数は 960 万人 (死亡原因の第 2 位) と推定され、2040 年には 1.6 倍に増加すると予測されています。がん対策として WHO は何を推奨しているのか？各国は何を優先し、どのようにがん対策を立案・実施していけばよいのか？本書にヒントが書かれています。当プロジェクトで現地活動調整を担っている春山怜医師 (NCGM) が、WHO 本部がん対策部門出向中、策定に一部携わりました。

(<https://www.who.int/publications-detail/who-report-on-cancer-setting-priorities-investing-wisely-and-providing-care-for-all>)



## JICA カンボジア 事務所の HP に 掲載されました！

当プロジェクトが JICA カンボジア事務所の英語版 HP で紹介されました(2020年1月16日付)。  
カンボジア保健省が子宮頸がん対策を重要健康課題の一つと位置付けていること、当プロジェクトのフェーズ1(2015~2018年)で工場労働者を対象に行っていた健康教育・子宮頸がん検診・治療を、フェーズ2(2019~2022年)では小学校教員向けにも拡大していくこと、そして新たに子宮頸がん検診・治療を担当できる婦人科医を育成していくという取り組み目標などが掲載されています。

## 本事業が JICA 広報室 の FB やツイッターで 紹介されました

2月4日「世界対がんデー」に合わせて、当プロジェクトが、日英両語で JICA 広報室の Facebook と Twitter で広く紹介されました。

【#カンボジア : 子宮頸がんを入口に女性のヘルスケアのさらなる向上へ】

2月4日は、がんについて考える #世界がんデー です。

JICA #草の根技術協力事業 では、2015年10月から3年間、カンボジア・プノンペン市で「工場労働者のための子宮頸がんを入口とした女性のヘルスケア向上プロジェクト」を実施し、工場労働女性を対象にした健康教育と子宮頸がん検診、早期発見・治療のための体制整備を行いました。世界保健機関(WHO)は子宮頸がんの世界的な排除を呼びかけており、このプロジェクトは世界的にも注目されています。

この成果を踏まえ、事業実施団体である公益社団法人日本産科婦人科学会は、カンボジア産婦人科学会と協同し、さらなる健康教育効果とがん検診対応能力の拡大を目指し、小学校教員にも対象を広げ、2019年11月より新たな草の根技術協力事業「女性のヘルスプロモーションを通じた包括的子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト」を開始しています。これにより、カンボジアの女性に健康を包括的に考えるリプロダクティブヘルスの意識が根付き、質の高い子宮頸がん検診体制整備に繋がることが期待されています。



< Facebook (日本語) >

<https://www.facebook.com/jicapr/posts/2666719590030838>

< Twitter (日本語) >

[https://twitter.com/jica\\_direct/status/1224522721029025792](https://twitter.com/jica_direct/status/1224522721029025792)

< Facebook (英語) >

<https://www.facebook.com/jicapreng/posts/1685739541567782>

< Twitter (英語) >

[https://twitter.com/jica\\_direct\\_en/status/1224613759873884160](https://twitter.com/jica_direct_en/status/1224613759873884160)